



## センターニュースをお読みの皆様へ

このたび島田療育センターリハビリテーション部長として着任いたしました。卒業以来、主に一般総合病院でリハビリテーション医として勤務してきました。対象は、病気・事故などで身体の機能を損なわれた方が中心で、「re-habilitation : 再び元の状態に戻る」ことをめざして治療を行います。一方、重症心身障害児者の多くは先天性障害であり、「元の状態」

をめざすことは困難です。ここで私にできることは何なのか？ご家族を含め利用者の皆様の援助とされることをめざして、できることを探したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



リハビリテーション部長 高山 昌子

2022年度

## 新職員オリエンテーションを実施しました

4月1日(金)、早朝の冷たい雨もあがり桜の花に陽が当たるころ、辞令交付式を迎えることができました。多摩10名はちおうじ3名、計13名が新たに入職され、皆さん緊張した面持ちで理事長よりひとりひとり手渡しして入職辞令交付を受けていました。

辞令交付のあとは4月11日(月)まで7日間にわたり講義43コマを受講しました。コロナウイルス感染拡大前は講師が工夫を凝らした実技型や体験型の研修が多くありましたが、今年はまだ座学中心で、スライドと資料による講義となりました。先輩職員のわかりやすい講義によりすべての研修が無事に終了し、今後は職種の異なる同期で集まり、顔を合わせて研修に参加する機会は多くありませんが、お互いに高めあって互いに成長できるような関係を築いてほしいと願います。

配属先では日々の業務を通して、利用者様のためにレベルアップできるよう、職場全体でサポートしています。  
(庶務科科长 駒場 直子)

## 講義は収録して活用しています



各講義は動画として収録し、何度でも閲覧できるようにしています。



理事長からひとりひとり入職辞令が手渡されました

## オリエンテーションの様子



接遇・電話対応の実習



救急蘇生の実習

多摩桜の丘学園

分教室 卒業式 を実施しました

3月24日(木)に島田分教室の卒業式が行われました。小学部1名、中学部1名、高等部1名が卒業証書を受け取り、頑張った学校生活を称えた温かい拍手に包まれました。また今回はリモートで式に参加された保護者の方も、お子様が式に臨む様子を画面から寄り添われて素晴らしい門出を祝いました。病棟に戻ると、スタッフの皆様から花吹雪と拍手で迎えられました。さあ、次のステージに気持ちも新たに進みましょう！ご卒業おめでとうございます。

(島田分教室一同)



デイケアセンター

幼児部 卒園式 を実施しました

3月29日(火)に幼児部卒園式が厚生棟にて行なわれました。卒園生は3名でご家族と一緒に出席されました。普段と違う雰囲気の中で少し緊張した様子も見られましたが、笑顔も見られ落ち着いて式を終えることができました。他部署からの応援メッセージや在園生からのあたたかい拍手に見送られる中、笑顔いっぱい元気に卒園されました。それぞれの新しい場所での生活が希望にあふれたものとなるよう願っています。

(デイケアセンター 稲葉 あゆみ)



ることに感慨深い思いがしています。

(療育部療育長 清水 信夫)

季節の彩 鯉のぼり

5月2日(月)から約3週間、第5・6病棟横にあるスロープを使用して鯉のぼりを泳がせてみました。真鯉に緋鯉に子ども達をささやかながら飾らせていただきましたが、利用者の皆様はご覧になりましたか。

最近、近隣の住宅では悠々と揺らめく鯉のぼりを見かけなくなりました。住宅事情の影響だと報じられている一方で、日本独自の文化を見直す機運もあり、地域のイベントでは数えきれない鯉のぼりが泳いでいる姿を見かけます。鯉のぼりを飾る形は時代とともに変化していても、中国の故事にまつわる登竜門の伝説や鯉の持つ強い生命力にあやかり、健やかに力強く生きてほしいと願わざるを得ない人の思いが根底に流れてい



2021年度

## 地域療育等支援事業 実施報告

本事業は、ご自宅等で暮らす障害をお持ちの方やそのご家族が“地域で療育的な指導や相談を受けられるよう”東京都からの委託により実施しています。2021年度も、新型コロナウイルスの感染拡大や緊急事態宣言等の影響により、例年よりも実施件数は少なくなっていますが、昨年度と比して回復傾向にあります。なお、緊急事態宣言期間中に限り、東京都（受託元）よりオンラインでの対応が認められています。

### 【外来療育等指導事業・訪問療育等指導事業】

障害のある方や発達上のご心配があるご本人、ご家族に対し、専門職が当センター内外でご相談に応じています。“外来療育等指導事業”では、センター内にてグループ指導の体験会や療育に関わる個別相談を実施しました。体験会は、初めて療育に触れる児童やご家族に療育の内容を知っていただき、その後の定期利用に繋げていければ、と企画しています。“訪問療育等指導事業”は、外出が困難な方や自宅での指導が必要な方に対し、専門職がご自宅等を訪問し各種ご相談に応じています。その他、外部公共機関での講習会として OT、ST、心理による「家族向け発達支援講座」を実施しています。2021年度は4回を対面で、2回をオンライン形式で実施し、OTからは“書字と手先”や“縄跳び”、STからは“ことばの育ち”や“食事(偏食)”，心理からは“ミニペアレントトレーニング”の講義を行ない、事前にお受けしたご質問にお答えしました。感染症の拡大状況により変更が生じる場合もありますが、今年度は回数・内容ともに拡充して企画していますので、皆様のご参加をお待ちしています。

訪問による家庭での個別相談は年間14件あり、定期的な訪問サービスに繋がる前の方や特別な事情で専門職の介入や相談が必要な方々に対応しました。外出が困難であっても直接専門職の相談を受けられる機会があることで、少しでもご家庭の安心に繋がればと思います(表①②)。

### 【施設支援一般指導事業(施設支援)】

障害のある方や発達上のご心配がある方に対応されている地域の通所施設の職員様のご相談に応じています。スタッフが施設へ出向く訪問相談と、施設の方に当センターへお越しいただく来所相談の方法があります。昨年度は63か所の施設に対し、延べ86件のご相談に応じました。新型コロナウイルスの感染拡大以降、施設支援のご依頼は減少傾向にありますが、一昨年度よりは実施件数は2割増加しました(表③・図①)。ご依頼自体はそれよりも多くありましたが、昨年度は低年齢の児童に感染が広がったことから、学級(園・学校)閉鎖

等により中止や延期となる機会が1割強ありました。

職種別では ST、心理職に次いで OT の対応が多く(表④)、ご相談内容もことばや口腔機能の発達、発達全般やコミュニケーション、集団生活での対応、運動機能や姿勢・体幹等、多岐に渡りました。現場を拝見し、職員の方々からも普段の様子をお聞きすることで、其々の対象児(者)や環境に合わせた工夫や支援方法を職員の方々と共に検討することができます。お伝えした内容を職員の方々やご本人、保護者の方々と共有いただき、更には他のご利用者やクラス運営にご活用くださることで、職員のスキルアップ等、“その後に繋がる支援”となればと願っています。

外来療育等指導事業・訪問療育等指導事業(表②)並びに、施設支援(表③)においても利用施設の6割が保育園・幼稚園と、低年齢の方々に関するご相談が多くなっています。入所施設を併設する施設として、依然感染対策は厳しい設定で対応させていただいていますが、皆様のご協力のもと、極力地域のお声に応じられるよう事業継続に尽力して参ります。本事業のご利用方法等については、ホームページ等をご確認ください。

(支援部 市川 香織)

表1 療育相談・訪問相談の対応職種延べ数(人)

医師	Ns	PT	OT	ST	心理	SW	その他
1	6	3	7	7	7	5	0

表2 療育相談・訪問の対象児(者)年齢(件)

0-2歳		13
3歳	年少児	17
4歳	年中児	16
5歳	年長児	21
6-8歳	小学校低学年	8
9-11歳	小学校高学年	4
12-14歳	中学生	1
15-17歳	高校生	2
18歳以上		1
合計		83

表4 施設支援一般指導事業の派遣職種延べ数(人)

医師	Ns	PT	OT	ST	心理	SW	その他
3	5	4	18	32	28	82	1

表3 施設支援一般指導事業の実施数(施設種別・市別毎)  
実:実施施設数、延:延べ実施数

	多摩市		八王子市		町田市		福城市		日野市		その他		合計	
	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延
特別支援学校	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	3	3
保育園	11	21	6	9	2	2	1	1	3	3	1	1	24	37
幼稚園	6	8	2	3	4	6	0	0	0	0	0	0	12	17
小学校	7	11	7	8	1	1	0	0	3	3	1	1	19	24
中学校	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3
障害児(者)機関	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
その他(学童舎)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	27	43	17	22	8	10	1	1	7	7	3	3	63	86

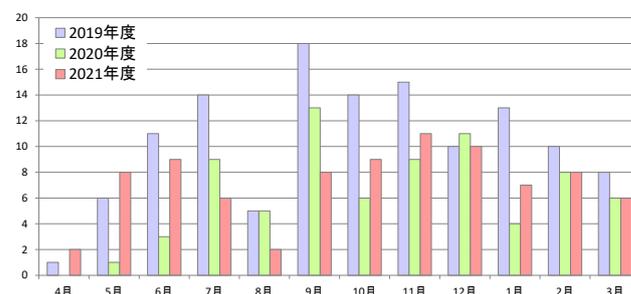


図1 施設支援一般指導事業の月毎の実施数の分布(施設)

